



2019年水道水質白書

横須賀メインベース

横須賀基地司令部



水道水質白書は海軍施設部隊司令部(CNIC)インストラクション 5090.1A 2018年6月29日の規定により毎年発行されるレポートです。このレポートには2019年の水質検査結果が反映されています。

水道水質白書は水道水の水源、水質、水道関連規則などについて説明する毎年発行されるレポートです。このレポートでは2019年に横須賀メインベースで供給された水道水について情報を提供していません。横須賀メインベースの水道水は安全に飲用できます。横須賀基地では常に安心して安全な水を供給することを目標としています。

水源

横須賀メインベースの水道水は横須賀市上下水道局から供給されています。相模川と酒匂川から取水された水は、横須賀市上下水道局が急速ろ過方式による浄水と塩素による消毒をしています。

配水施設

水道局から送水された水道水は、横須賀基地施設管理部(CFAY PWD)が基地内の各施設へ配水しています。横須賀メインベースではタンクに水を貯水し、ハウジングエリアに配水される水道水にフッ素を添加しています。



水道関連規則の遵守

海軍では海軍施設部隊司令部(CNIC)インストラクション 5090.1Aにより、日本を含む全ての海外に駐留する海軍基地で米国安全飲料水法に基づく第1種飲料水規則等の基準に遵守することが義務付けられています。また、在日米軍に適用される日本環境管理基準(JEGS)の水道に関する各規則を遵守する義務があります。JEGSは日本で活動する米軍が自然環境や従業員の健康を守るため、水道・大気・廃棄物などさまざまな環境分野で遵守すべき基準を定めています。

信頼性の高い水道水を供給するため、基地水道品質委員会(IWQB)が設置され海軍海外水道(ODW)プログラムの全規則を遵守するために様々な対策を実施しています。横須賀基地の水道システムは地域水道品質委員会(RWQB)より条件付運用許可を得て運営されていますが、完全な運用許可(CTO)を得るために衛生監査の重要指摘事項をすべて是正するための対策を実行しています。

水源アセスメント

海軍水道品質監視委員会(WQOC)による衛生監査が3年に一度横須賀基地水道システムで行われます。この監査は安全な水道を供給するために水源管理、施設、設備、運転、メンテナンスなどが適切に行われているか評価するものです。また基地環境課による内部監査も毎年実施されています。これらの監査報告書に基づいて、継続的な水道システムの向上を図っています。次の衛生監査は2020年に予定されています。

健康に関する重要なお知らせ

化学療法で治療中のがん患者、移植手術患者、エイズ患者、一部の高齢者や乳児など免疫力の低下している人はより敏感に水道水混入物質に反応することがあり、特に感染症を発症する可能性が他の人より高くなる場合があります。当てはまる場合は基地の水道水の利用について医師などに相談することをお勧めします。米国環境保護庁（EPA）と疾病対策センターはクリプトスポリジウムなどの微生物による感染症対策のガイドラインなどを提供するホットラインを設けています。電話：1-800-426-4791

規則の免除

すべての ODW システムは海軍規則により、認証を受けた分析機関で、EPA が承認した水道分析方法による水質検査を実施しています。水質検査の内、大腸菌、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素の検査は、米国 EPA の承認を受けていない日本国内の分析機関に依頼しています。この分析機関は、EPA の基準と同等の品質管理能力があると WQOC により確認され、2020 年 5 月に EPA 承認分析機関に関する規則の免除が認められました。

混入する可能性がある物質

水道水やペットボトルなどの飲料水には水以外の不純物も含まれています。水道水に微量の不純物が混入するということは、必ずしも私達の健康を害するという事ではありません。混入物質やその健康への影響の詳細は、EPA のホットライン 1-800-426-4791 やウェブサイトで確認できます。

<https://www.epa.gov/dwstandardsregulations/drinking-water-contaminant-human-health-effects-information>

水源となる河川やダムなどの水は、地表を流れたり地下を通過する過程で放射性物質を含む様々な成分が自然に溶け込みます。また、動物や人間の活動に由来する不純物が混入することも考えられます。混入する不純物には次のような物質が考えられます；

- 汚水処理施設、浄化槽、家畜、野生生物などによるバクテリアやウイルスなどの微生物。
- 自然由来や都市の雨水、下水、石油精製や農業などによる塩や金属などの無機物。
- 農業、都市の雨水や家庭での使用などによる農薬。
- 工場などで発生する揮発性有機物、石油精製、ガソリンスタンド、都市の下水などによる有機物。
- 自然に由来する場合や石油・ガス生産や鉱山などによる放射性物質。

水道水の安全を保つために EPA や JEGS により水質基準が設けられています。米国製ペットボトルの水質基準は米国食品医薬品局(FDA)が定めています。

その他の混入物質

鉛

蛇口や配管などの給水設備に含まれる微量の鉛成分が水道水中に溶け出すことがあります。鉛濃度が高いと、特に妊婦や子供の健康に影響を与える可能性があります。蛇口を数時間以上使用してないと鉛が溶け込む可能性があり、水道を使用する前に 30 秒から 2 分ほど水を流すことで鉛の摂取量を減らすことができます。横須賀基地では毎年ハウジングエリアなどで鉛の分析を実施しています。EPA のウェブサイトでは水道水中の鉛について詳しく説明しています。<http://www.epa.gov/safewater/lead>

優先施設鉛検査 (LIPA)

子供の鉛暴露をより低く抑えるための対策として、LIPA 施設の水道水中の鉛量を把握するため、2014 年に横須賀基地内の全ての学校、託児所 (CDC)、ユースセンターで鉛検査が行われました。その後は5年に一度の定期検査、また給水器具の交換工事が行われるたびに鉛検査を実施しています。2019年3月には鉛基準値が20ppbから15ppbに引き下げられ、過去の検査分も含め基準値を超過した給水器具の使用を停止しました。鉛軽減対策として給水器具の交換後、再検査で基準値を下回ったことを確認した後に器具の使用を再開しています。最新の検査結果は下記のリンクから閲覧できます。

https://www.cnrc.navy.mil/regions/cnrj/installations/cfa_yokosuka/om/environmental/water-quality-information/cfay-lead-in-priority-area-sampling-program.html

また、5年に一度の定期検査のほか、水漏れ等の不具合による給水器具交換時にも個別鉛検査を実施しています。個別検査結果は次の表の通りです。

LIPA 個別鉛検査結果		
場所	サンプリング 実施日	結果 (ppb)
Yokosuka Middle School Bldg. 4372 1F Storage 147C Faucet (ID# F074-1F)	1/29/2019	7.6
Yokosuka Middle School Bldg. 4372 1F Storage 147C Faucet (ID# F074-2F)	1/29/2019	ND
Yokosuka Middle School Bldg. 4373 3F Classroom 312 Faucet (ID# F177-1F)	1/29/2019	4.7
Yokosuka Middle School Bldg. 4373 3F Classroom 312 Faucet (ID# F177-2F)	1/29/2019	ND
Yokosuka Middle School Bldg. 4373 2F Classroom 137 Faucet (ID# F062)	4/11/2019	4.6
Kinnick High School Bldg. 1901 3F Corridor Cooler (ID# C131)	6/6/2019	1.9
Sullivans Elementary School Bldg. 9000T 2F Classroom Cooler (ID#B018)	1/23/2019	1.7
Sullivans Elementary School Bldg. 9000T 2F Corridor Cooler (ID#C015) B018	9/4/2019	不検出

水質検査

横須賀基地では米国環境保護庁と日本の分析方法を用いて定期的に定められた分析項目・頻度で水質検査を実施しています。

分析項目	検査頻度
pH、残留塩素、濁度	毎時
フッ素	毎日
大腸菌	毎月
消毒副生成物 (総トリハロメタン [TTHM]、ハロ酢酸 [HAA5])	年4回
鉛、銅	毎年
無機化合物	毎年/年4回 ¹
揮発性有機化合物	毎年
ポリ塩化ビフェニル、農薬類*	3年に1回
放射性核種	4年に1回
アスベスト	9年に1回

注1.無機化合物のうち、河川等を水源とする水道の検査で総硝酸態窒素亜硝酸態窒素は年4回行われます。

検査結果

水質検査で検出された物質は次の表のとおりです。混入物質が検出されるということは必ずしも私達の健康を害するという事ではありません。横須賀メインベースの水道水は水質基準に適合し、安全に飲用することができます。

水質基準項目	目標値 (MCLG or MRDLG)	基準値 (MCL, TT or, MRDL)	検査結果		検査年	水質基準 違反	主な混入源
			下限	上限			
消毒剤及び消毒副生成物							
残留塩素 (ppm)	4	4 ¹	0.27	.79	2019	なし ²	消毒用添加物
ハロ酢酸 [HAA5] (ppb)	NA	60	9	20.2	2019	なし	水道水塩素消毒副生成物
総トリハロメタン [THMs] (ppb)	NA	80	2.3	39.2	2019	なし	水道水塩素消毒副生成物
無機化合物							
フッ素 (ppm)	4	4	0.08	0.71	2019	なし	自然由来、水道添加物、肥料、アルミ工場排水
硝酸性窒素 (ppm)	10	10	0.8	0.8	2019	なし	肥料、浄化槽、下水、自然由来
ナトリウム (ppm)	NA	NA	6.6	7.4	2019	なし	自然由来
揮発性有機化合物							
トルエン (ppm)	1	1	不検出	0.0003	2019	なし	石油精製排水
細菌							
大腸菌 (検出・不検出)	0	2 以上	不検出	検出 ³	2019	あり	環境に自然に存在

水質基準項目	目標値 (MCLG)	基準値 (AL)	90パー センタ イル値	検査年	基準値 超過数	基準超過	主な混入源
無機化合物							
銅 (ppm)	1.3	1.3	0.046	2019	0	なし	屋内水道配管腐食、自然由来
鉛 (ppb)	0	15	1.1	2019	0	なし	屋内水道配管腐食、自然由来
注1：残留塩素はMRDLが適用されます。							
注2：バクテリアの繁殖を防ぐため水道中に0.2mg/l以上の残留塩素が必要とされています。							
注3：2019年6月に大腸菌が2か所で検出されました。大腸菌は環境中に自然に存在するもので、有害なバクテリアが存在する可能性を示すインジケーターとなります。今回は大腸菌が基準値の2ヶ所で検出され問題がある可能性があるかと判断されました。そのため追加検査を実施しましたが、より危険度の高いE. coliなどのバクテリアは存在しないことが確認されました。後日の再検査でもこれらのバクテリアが不検出であったのを確認し対応を終了しました。							

略語と意味：

- AL:** アクションレベル値。超過した場合、定められた追加処置をしなければならぬ濃度。超過は90パーセントイル値から判断します。
- MCL:** 最大許容混入値。水道水として許容できる混入量の最大値。可能な限り最大許容混入目標値に近く設定されています。
- MCLG:** 最大許容混入目標値。水道水中の混入物による健康リスクがなくなるとされる目標値。
- MRDL:** 最大残留消毒剤濃度。水道水中で許容される残留消毒剤の最大値。消毒剤の使用は微生物の発生を抑制するために必要とされます。
- MRDLG:** 最大残留消毒剤濃度目標。水道水中の残留消毒剤による健康リスクがなくなるとされる目標値。但し、消毒効果を考慮した値ではありません。

- NA:** 該当なし。
- ND:** 不検出。
- ppm:** パーツ・パー・ミリオン。mg/L（ミリグラム・パー・リットル）と同等。
- ppb:** パーツ・パー・ビリオン。μg/L（マイクログラム・パー・リットル）と同等。
- TT:** トリートメントテクニック。水道水中の混入物質を低減させるために必要な処置のこと。
- 90パーセン** 採取された全ての水道サンプルのうち90%のサンプルが示す最大値。90パーセン
- タイル値:** タイル値がAL値を超過した場合、適切な軽減措置をとることが定められています。

連絡先

質問などは基地環境課までお問い合わせください：

Yoshiaki Kanazawa（243-6460）Yoshiaki.Kanazawa.ja@fe.navy.mil

Loreal Spear（243-9520）Loreal.spear@fe.navy.mil



2019 年水道水質白書

池子住宅地区

横須賀基地司令部



水道水質白書は海軍施設部隊司令部(CNIC)インストラクション 5090.1A 2018 年 6 月 29 日の規定により毎年発行されるレポートです。このレポートには 2019 年の水質検査結果が反映されています。

水道水質白書は水道水の水源、水質、水道関連規則などについて説明する毎年発行されるレポートです。このレポートでは 2019 年に池子住宅地区で供給された水道水について情報を提供しています。池子住宅地区の水道水は安全に飲用できます。横須賀基地では常に安心して安全な水を供給することを目標としています。

水源

池子住宅地区の水道水は神奈川県営水道から供給されています。相模川から取水された水は、神奈川県営水道が急速ろ過方式による浄水と塩素による消毒をしています。

配水施設

水道局から送水された水道水は、横須賀基地施設管理部 (CFAY PWD) が基地内の各施設へ配水しています。池子住宅地区ではタンクに水を貯水し、配水される水道水にフッ素を添加しています。



水道関連規則の遵守

海軍では海軍施設部隊司令部 (CNIC) インストラクション 5090.1A により、日本を含む全ての海外に駐留する海軍基地で米国安全飲料水法に基づく第 1 種飲料水規則等の基準に遵守することが義務付けられています。また、在日米軍に適用される日本環境管理基準 (JEQS) の水道に関する各規則を遵守する義務があります。JEQS は日本で活動する米軍が自然環境や従業員の健康を守るため、水道・大気・廃棄物などさまざまな環境分野で遵守すべき基準を定めています。

信頼性の高い水道水を供給するため、基地水道品質委員会 (IWQB) が設置され海軍海外水道 (ODW) プログラムの全規則を遵守するために様々な対策を実施しています。横須賀基地の水道システムは地域水道品質委員会 (RWQB) より条件付運用許可を得て運営されていますが、完全な運用許可 (CTO) を得るために衛生監査の重要指摘事項をすべて是正するための対策を実行しています。

水源アセスメント

海軍水道品質監視委員会 (WQOC) による衛生監査が 3 年に一度横須賀基地水道システムで行われます。この監査は安全な水道を供給するために水源管理、施設、設備、運転、メンテナンスなどが適切に行われているか評価するものです。また基地環境課による内部監査も毎年実施されています。これらの監査報告書に基づいて、継続的な水道システムの向上を図っています。次の衛生監査は 2020 年に予定されています。

健康に関する重要なお知らせ

化学療法で治療中のがん患者、移植手術患者、エイズ患者、一部の高齢者や乳児など免疫力の低下している人はより敏感に水道水混入物質に反応することがあり、特に感染症を発症する可能性が他の人より高くなる場合があります。当てはまる場合は基地の水道水の利用について医師などに相談することをお勧めします。米国環境保護庁（EPA）と疾病対策センターはクリプトスポリジウムなどの微生物による感染症対策のガイドラインなどを提供するホットラインを設けています。電話：1-800-426-4791

規則の免除

すべての ODW システムは海軍規則により、認証を受けた分析機関で、EPA が承認した水道分析方法による水質検査を実施しています。水質検査の内、大腸菌、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素の検査は、米国 EPA の承認を受けていない日本国内の分析機関に依頼しています。この分析機関は、EPA の基準と同等の品質管理能力があると WQOC により確認され、2020 年 5 月に EPA 承認分析機関に関する規則の免除が認められました。

混入する可能性がある物質

水道水やペットボトルなどの飲料水には水以外の不純物も含まれています。水道水に微量の不純物が混入するということは、必ずしも私達の健康を害するという事ではありません。混入物質やその健康への影響の詳細は、EPA のホットライン 1-800-426-4791 やウェブサイトで確認できます。

<https://www.epa.gov/dwstandardsregulations/drinking-water-contaminant-human-health-effects-information>

水源となる河川やダムなどの水は、地表を流れたり地下を通過する過程で放射性物質を含む様々な成分が自然に溶け込みます。また、動物や人間の活動に由来する不純物が混入することも考えられます。混入する不純物には次のような物質が考えられます；

- 汚水処理施設、浄化槽、家畜、野生生物などによるバクテリアやウイルスなどの微生物。
- 自然由来や都市の雨水、下水、石油精製や農業などによる塩や金属などの無機物。
- 農業、都市の雨水や家庭での使用などによる農薬。
- 工場などで発生する揮発性有機物、石油精製、ガソリンスタンド、都市の下水などによる有機物。自然に由来する場合や石油・ガス生産や鉱山などによる放射性物質。
- 自然に由来する場合や石油・ガス生産や鉱山などによる放射性物質。

水道水の安全を保つために EPA や JEGS により水質基準が設けられています。米国製ペットボトルの水質基準は米国食品医薬品局(FDA)が定めています。

その他の混入物質

鉛

蛇口や配管などの給水設備に含まれる微量の鉛成分が水道水中に溶け出すことがあります。鉛濃度が高いと、特に妊婦や子供の健康に影響を与える可能性があります。蛇口を数時間以上使用してないと鉛が溶け込む可能性があり、水道を使用する前に 30 秒から 2 分ほど水を流すことで鉛の摂取量を減らすことができます。横須賀基地では毎年ハウジングエリアなどで鉛の分析を実施しています。EPA のウェブサイトでは水道水中の鉛について詳しく説明しています。<http://www.epa.gov/safewater/lead>

優先施設鉛検査 (LIPA)

子供の鉛暴露をより低く抑えるための対策として、LIPA 施設の水道水中の鉛量を把握するため、2014 年に横須賀基地内の全ての学校、託児所 (CDC)、ユースセンターで鉛検査が行われました。その後は 5 年に一度の定期検査、また給水器具の交換工事が行われるたびに鉛検査を実施しています。2019 年 3 月には鉛基準値が 20 ppb から 15 ppb に引き下げられ、過去の検査分も含め基準値を超過した給水器具の使用を停止しました。鉛軽減対策として給水器具の交換後、再検査で基準値を下回ったことを確認した後に器具の使用を再開しています。最新の検査結果は下記のリンクから閲覧できます。

https://www.cnrc.navy.mil/regions/cnrj/installations/cfa_yokosuka/om/environmental/water-quality-information/cfay-lead-in-priority-area-sampling-program.html

また、5 年に一度の定期検査のほか、水漏れ等の不具合による給水器具交換時にも個別鉛検査を実施しています。個別検査結果は次の表の通りです。

LIPA 個別鉛検査結果		
場所	サンプリング実施日	結果 (ppb)
Ikego Elementary School Bldg. 824 3F Corridor 2 Cooler (ID# C114)	6/14/2019	0.63

水質検査

横須賀基地では米国環境保護庁と日本の分析方法を用いて定期的に定められた分析項目・頻度で水質検査を実施しています。

分析項目	検査頻度
pH、残留塩素、濁度	毎時
フッ素	毎日
大腸菌	毎月
消毒副生成物 (総トリハロメタン [TTHM]、ハロ酢酸 [HAA5])	年 4 回
鉛、銅	毎年
無機化合物	毎年/年 4 回 ¹
揮発性有機化合物	毎年
ポリ塩化ビフェニル、農薬類	3 年に 1 回
放射性核種	4 年に 1 回
アスベスト	9 年に 1 回

注 1.無機化合物のうち、河川等を水源とする水道の検査で総硝酸態窒素亜硝酸態窒素は年 4 回行われます。

検査結果

水質検査で検出された物質は次の表のとおりです。混入物質が検出されるということは必ずしも私達の健康を害するという事ではありません。池子住宅地区の水道水は水質基準に適合し、安全に飲むことができます。

水質基準項目	目標値 (MCLG or MRDLG)	基準値 (MCL, TT or, MRDL)	検査結果		検査年	水質基準違反	主な混入源
			下限	上限			
消毒剤及び消毒副生成物							
残留塩素 (ppm)	4	4 ¹	0.33	.96	2019	なし ²	消毒用添加物
ハロ酢酸 [HAA5] (ppb)	NA	60	7.6	32.7	2019	なし	水道水塩素消毒副生成物
総トリハロメタン [TTHMs] (ppb)	NA	80	10	19.3	2019	なし	水道水塩素消毒副生成物

無機化合物							
フッ素(ppm)	4	4	NA ³	0.75	2019	なし	自然由来、水道添加物、肥料、アルミ工場排水
硝酸性窒素(ppm)	10	10	NA ³	0.8	2019	なし	肥料、浄化槽、下水、自然由来
ナトリウム(ppm)	NA	NA	NA ³	7.5	2019	なし	自然由来
揮発性有機化合物							
トルエン(ppm)	1	1	不検出	0.00039	2019	なし	石油精製排水
注1：残留塩素はMRDLが適用されます。							
注2：バクテリアの繁殖を防ぐため水道中に0.2mg/l以上の残留塩素が必要とされています。							
注3：サンプル数が1検体のみのため、下限は該当なしとしています。							

水質基準項目	目標値 (MCLG)	基準値 (AL)	90パーセント値	検査年	基準値超過数	基準超過	主な混入源
無機化合物							
銅 (ppm)	1.3	1.3	0.025	2019	0	なし	屋内水道配管腐食、自然由来
鉛(ppb)	0	15	2	2019	0	なし	屋内水道配管腐食、自然由来

略語と意味：

- AL:** アクションレベル値。超過した場合、定められた追加処置をしなければならない濃度。超過は90パーセント値から判断します。
- MCL:** 最大許容混入値。水道水として許容できる混入量の最大値。可能な限り最大許容混入目標値に近く設定されています。
- MCLG:** 最大許容混入目標値。水道水中の混入物による健康リスクがなくなるとされる目標値。
- MRDL:** 最大残留消毒剤濃度。水道水中で許容される残留消毒剤の最大値。消毒剤の使用は微生物の発生を抑制するために必要とされます。
- MRDLG:** 最大残留消毒剤濃度目標。水道水中の残留消毒剤による健康リスクがなくなるとされる目標値。但し、消毒効果を考慮した値ではありません。
- NA:** 該当なし。
- ND:** 不検出。
- ppm:** パーツ・パー・ミリオン。mg/L (ミリグラム・パー・リットル) と同等。
- ppb:** パーツ・パー・ビリオン。µg/L (マイクログラム・パー・リットル) と同等。
- TT:** トリートメントテクニック。水道水中の混入物質を低減させるために必要な処置のこと。
- 90パーセント値:** 採取された全ての水道サンプルのうち90%のサンプルが示す最大値。90パーセント値がAL値を超過した場合、適切な軽減措置をとることが定められています。

連絡先

質問などは基地環境課までお問い合わせください：

Yoshiaki Kanazawa (243-6460) Yoshiaki.Kanazawa.ja@fe.navy.mil

Loreal Spear (243-9520) Loreal.spear@fe.navy.mil



2019年水道水質白書

浦郷倉庫地区

横須賀基地司令部



水道水質白書は海軍施設部隊司令部(CNIC)インストラクション 5090.1A 2018年6月29日の規定により毎年発行されるレポートです。このレポートには2019年の水質検査結果が反映されています。

水道水質白書は水道水の水源、水質、水道関連規則などについて説明する毎年発行されるレポートです。このレポートでは2019年に浦郷倉庫地区で供給された水道水について情報を提供しています。浦郷倉庫地区の水道水は安全に飲用できます。横須賀基地では常に安心して安全な水を供給することを目標としています。

水源

浦郷倉庫地区の水道水は横須賀市上下水道局から供給されています。相模川と酒匂川から取水された水は、横須賀市上下水道局が急速ろ過方式による浄水と塩素による消毒をしています。

配水施設

水道局から送水された水道水は、横須賀基地施設管理部(CFAY PWD)が基地内の各施設へ配水しています。浦郷倉庫地区ではフッ素添加などの処理は行わず、購入した水をそのまま配水しています。



水道関連規則の遵守

海軍では海軍施設部隊司令部(CNIC)インストラクション 5090.1Aにより、日本を含む全ての海外に駐留する海軍基地で米国安全飲料水法に基づく第1種飲料水規則等の基準に遵守することが義務付けられています。また、在日米軍に適用される日本環境管理基準(JEGS)の水道に関する各規則も遵守する義務があります。JEGSは日本で活動する米軍が自然環境や従業員の健康を守るため、水道・大気・廃棄物などさまざまな環境分野で遵守すべき基準を定めています。

信頼性の高い水道水を供給するため、基地水道品質委員会(IWQB)が設置され海軍の海外水道プログラムの全規則を遵守するために様々な対策を実施しています。横須賀基地の水道システムは地域水道品質委員会より条件付運用許可を得て運営されていますが、完全な運用許可(CTO)を得るために衛生監査の重要指摘事項をすべて是正するための対応策を実行しています。

水源アセスメント

海軍水道品質監視委員会(WQOC)による衛生監査が3年に一度横須賀基地水道システムで行われます。この監査は安全な水道水を供給するために水源管理、施設、設備、運転、メンテナンスなどが適切に行われているか評価するものです。また基地環境課による内部監査も毎年実施されています。これらの監査報告書に基づいて、継続的な水道システムの向上を図っています。次の衛生監査は2020年に予定されています。

健康に関する重要なお知らせ

化学療法で治療中のがん患者、移植手術患者、エイズ患者、一部の高齢者や乳児など免疫力の低下している人はより敏感に水道水混入物質に反応することがあり、特に感染症を発症する可能性が他の人より高くなる場合があります。当てはまる場合は基地の水道水の利用について医師などに相談することをお勧めします。米国環境保護庁（EPA）と疾病対策センターはクリプトスポリジウムなどの微生物による感染症対策のガイドラインなどを提供するホットラインを設けています。電話：1-800-426-4791

規則の免除

すべての ODW システムは海軍規則により、認証を受けた分析機関で、EPA が承認した水道分析方法による水質検査を実施しています。水質検査の内、大腸菌、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素の検査は、米国 EPA の承認を受けていない日本国内の分析機関に依頼しています。この分析機関は、EPA の基準と同等の品質管理能力があると WQOC により確認され、2020 年 5 月に EPA 承認分析機関に関する規則の免除が認められました。

混入する可能性がある物質

水道水やペットボトルなどの飲料水には水以外の不純物も含まれています。水道水に微量の不純物が混入するという事は、必ずしも私達の健康を害するという事ではありません。混入物質やその健康への影響の詳細は、EPA のホットライン 1-800-426-4791 やウェブサイトで確認できます。

<https://www.epa.gov/dwstandardsregulations/drinking-water-contaminant-human-health-effects-information>

水源となる河川やダムなどの水は、地表を流れたり地下を通過する過程で放射性物質を含む様々な成分が自然に溶け込みます。また、動物や人間の活動に由来する不純物が混入することも考えられます。混入する不純物には次のような物質が考えられます；

- 汚水処理施設、浄化槽、家畜、野生生物などによるバクテリアやウイルスなどの微生物。
- 自然由来や都市の雨水、下水、石油精製や農業などによる塩や金属などの無機物。
- 農業、都市の雨水や家庭での使用などによる農薬。
- 工場などで発生する揮発性有機物、石油精製、ガソリンスタンド、都市の下水などによる有機物。
- 自然に由来する場合や石油・ガス生産や鉱山などによる放射性物質。

水道水の安全を保つために EPA や JEGS により水質基準が設けられています。米国製ペットボトルの水質基準は米国食品医薬品局(FDA)が定めています。

その他の混入物質

鉛

蛇口や配管などの給水設備に含まれる微量の鉛成分が水道水中に溶け出すことがあります。鉛濃度が高いと、特に妊婦や子供の健康に影響を与える可能性があります。蛇口を数時間以上使用してないと鉛が溶け込む可能性があり、水道を使用する前に 30 秒から 2 分ほど水を流すことで鉛の摂取量を減らすことができます。横須賀基地では毎年ハウジングエリアなどで鉛の分析を実施しています。EPA のウェブサイトでは水道水中の鉛について詳しく説明しています。<http://www.epa.gov/safewater/lead>

水質検査

横須賀基地では米国環境保護庁と日本の分析方法を用いて定期的に定められた分析項目・頻度で水質検査を実施しています。

項目	検査頻度
pH、残留塩素	毎月
大腸菌	毎月
消毒副生成物（総トリハロメタン [TTHM]、ハロ酢酸 [HAA5]）	毎年
鉛、銅	毎年
無機化合物	毎年/年4回 ¹
揮発性有機化合物	毎年
ポリ塩化ビフェニル、農薬類	3年に1回
アスベスト	9年に1回

注1.無機化合物のうち、河川等を水源とする水道の検査で総硝酸態窒素亜硝酸態窒素は年4回行われます。

検査結果

水質検査で検出された物質は次の表のとおりです。混入物質が検出されるということは必ずしも私達の健康を害するという事ではありません。浦郷倉庫地区の水道水は水質基準に適合し、安全に飲用することができます。

水質基準項目	目標値 (MCLG or MRDLG)	基準値 (MCL, TT or, MRDL)	検査結果		検査年	違反	主な混入源
			下限	上限			
消毒剤及び消毒副生成物							
残留塩素 (ppm)	4	4 ¹	0.50	.73	2019	なし ²	消毒用添加物
ハロ酢酸 [HAA5] (ppb)	NA	60	NA ³	16.6	2019	なし	水道水塩素消毒副生成物
総トリハロメタン [TTHMs] (ppb)	NA	80	NA ³	21.8	2019	なし	水道水塩素消毒副生成物
無機化合物							
バリウム (ppm)	2	2	NA ³	0.0023	2019	なし	掘削工事排水、製鉄所排水、自然由来
硝酸性窒素 (ppm)	10	10	NA ³	0.7	2019	なし	肥料、浄化槽、下水、自然由来
ナトリウム (ppm)	NA	NA	NA ³	6.5	2019	なし	自然由来
注1：残留塩素はMRDLが適用されます。							
注2：バクテリアの繁殖を防ぐため水道中に0.2mg/l以上の残留塩素が必要とされています。							
注3：サンプル数が1検体のみのため、下限は該当なしとしています。							

水質基準項目	目標値 (MCLG)	基準値 (AL)	90パー セント イル値	検査年	基準値 超過数	基準超過	主な混入源
無機化合物							
銅 (ppm)	1.3	1.3	0.038	2019	0	なし	屋内水道配管腐食、自然由来
鉛 (ppb)	0	15	1.85	2019	0	なし	屋内水道配管腐食、自然由来

略語と意味：

- AL:** アクションレベル値。超過した場合、定められた追加処置をしなければならぬ濃度。超過は90パーセント値から判断します。
- MCL:** 最大許容混入値。水道水として許容できる混入量の最大値。可能な限り最大許容混入目標値に近く設定されています。
- MCLG:** 最大許容混入目標値。水道水中の混入物による健康リスクがなくなるとされる目標値。
- MRDL:** 最大残留消毒剤濃度。水道水中で許容される残留消毒剤の最大値。消毒剤の使用は微生物の発生を抑制するために必要とされます。
- MRDLG:** 最大残留消毒剤濃度目標。水道水中の残留消毒剤による健康リスクがなくなるとされる目標値。但し、消毒効果を考慮した値ではありません。
- NA:** 該当なし。
- ND:** 不検出。
- ppm:** パーツ・パー・ミリオン。mg/L（ミリグラム・パー・リットル）と同等。
- ppb:** パーツ・パー・ビリオン。μg/L（マイクログラム・パー・リットル）と同等。
- TT:** トリートメントテクニック。水道水中の混入物質を低減させるために必要な処置のこと。
- 90パーセント値:** 採取された全ての水道サンプルのうち90%のサンプルが示す最大値。90パーセント値がAL値を超過した場合、適切な軽減措置をとることが定められています。

連絡先

質問などは基地環境課までお問い合わせください：

Yoshiaki Kanazawa (243-6460) Yoshiaki.Kanazawa.ja@fe.navy.mil

Loreal Spear (243-9520) Loreal.spear@fe.navy.mil



2019年水道水質白書

箱崎燃料ターミナル

横須賀基地司令部



水道水質白書は海軍施設部隊司令部(CNIC)インストラクション 5090.1A 2018年6月29日の規定により毎年発行されるレポートです。このレポートには2019年の水質検査結果が反映されています。

水道水質白書は水道水の水源、水質、水道関連規則などについて説明する毎年発行されるレポートです。このレポートでは2019年に箱崎燃料ターミナルで供給された水道水について情報を提供していません。箱崎燃料ターミナルの水道水は安全に飲用できます。横須賀基地では常に安心して安全な水を供給することを目標としています。

水源

箱崎燃料ターミナルの水道水は横須賀市上下水道局から供給されています。相模川と酒匂川から取水された水は、横須賀市上下水道局が急速ろ過方式による浄水と塩素による消毒をしています。



配水施設

水道局から送水された水道水は、横須賀基地施設管理部(CFAY PWD)が基地内の各施設へ配水しています。箱崎燃料ターミナルではフッ素添加などの処理は行わず、購入した水をそのまま配水しています。

水道関連規則の遵守

海軍では海軍施設部隊司令部(CNIC)インストラクション 5090.1Aにより、日本を含む全ての海外に駐留する海軍基地で米国安全飲料水法に基づく第1種飲料水規則等の基準に遵守することが義務付けられています。また、在日米軍に適用される日本環境管理基準(JEGS)の水道に関する各規則も遵守する義務があります。JEGSは日本で活動する米軍が自然環境や従業員の健康を守るため、水道・大気・廃棄物などさまざまな環境分野で遵守すべき基準を定めています。

信頼性の高い水道水を供給するため、基地水道品質委員会(IWQB)が設置され海軍海外水道(ODW)プログラムの全規則を遵守するために様々な対策を実施しています。横須賀基地の水道システムは地域水道品質委員会(RWQB)より条件付運用許可を得て運営されていますが、完全な運用許可(CTO)を得るために衛生監査の重要指摘事項をすべて是正するための対応策を実行しています。

水源アセスメント

海軍水道品質監視委員会(WQOC)による衛生監査が3年に一度横須賀基地水道システムで行われます。この監査は安全な水道水を供給するために水源管理、施設、設備、運転、メンテナンスなどが適切に行われているか評価するものです。また基地環境課による内部監査も毎年実施されています。これらの監査報告書に基づいて、継続的な水道システムの向上を図っています。次の衛生監査は2020年に予定されています。

健康に関する重要なお知らせ

化学療法で治療中のがん患者、移植手術患者、エイズ患者、一部の高齢者や乳児など免疫力の低下している人はより敏感に水道水混入物質に反応することがあり、特に感染症を発症する可能性が他の人より高くなる場合があります。当てはまる場合は基地の水道水の利用について医師などに相談することをお勧めします。米国環境保護庁（EPA）と疾病対策センターはクリプトスポリジウムなどの微生物による感染症対策のガイドラインなどを提供するホットラインを設けています。電話：1-800-426-4791

規則の免除

すべての ODW システムは海軍規則により、認証を受けた分析機関で、EPA が承認した水道分析方法による水質検査を実施しています。水質検査の内、大腸菌、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素の検査は、米国 EPA の承認を受けていない日本国内の分析機関に依頼しています。この分析機関は、EPA の基準と同等の品質管理能力があると WQOC により確認され、2020 年 5 月に EPA 承認分析機関に関する規則の免除が認められました。

混入する可能性がある物質

水道水やペットボトルなどの飲料水には水以外の不純物も含まれています。水道水に微量の不純物が混入するという事は、必ずしも私達の健康を害するという事ではありません。混入物質やその健康への影響の詳細は、EPA のホットライン 1-800-426-4791 やウェブサイトで確認できます。

<https://www.epa.gov/dwstandardsregulations/drinking-water-contaminant-human-health-effects-information>

水源となる河川やダムなどの水は、地表を流れたり地下を通過する過程で放射性物質を含む様々な成分が自然に溶け込みます。また、動物や人間の活動に由来する不純物が混入することも考えられます。混入する不純物には次のような物質が考えられます；

- 汚水処理施設、浄化槽、家畜、野生生物などによるバクテリアやウイルスなどの微生物。
- 自然由来や都市の雨水、下水、石油精製や農業などによる塩や金属などの無機物。
- 農業、都市の雨水や家庭での使用などによる農薬。
- 工場などで発生する揮発性有機物、石油精製、ガソリンスタンド、都市の下水などによる有機物。
- 自然に由来する場合や石油・ガス生産や鉱山などによる放射性物質。

水道水の安全を保つために EPA や JEGS により水質基準が設けられています。米国製ペットボトルの水質基準は米国食品医薬品局(FDA)が定めています。

その他の混入物質

鉛

蛇口や配管などの給水設備に含まれる微量の鉛成分が水道水中に溶け出すことがあります。鉛濃度が高いと、特に妊婦や子供の健康に影響を与える可能性があります。蛇口を数時間以上使用してないと鉛が溶け込む可能性があり、水道を使用する前に 30 秒から 2 分ほど水を流すことで鉛の摂取量を減らすことができます。横須賀基地では毎年ハウジングエリアなどで鉛の分析を実施しています。EPA のウェブサイトでは水道水中の鉛について詳しく説明しています。<http://www.epa.gov/safewater/lead>

水質検査

横須賀基地では米国環境保護庁と日本の分析方法を用いて定期的に定められた分析項目・頻度で水質検査を実施しています。

Constituent	Frequency
pH、残留塩素	毎月
大腸菌	毎月
消毒副生成物（総トリハロメタン [TTHM]、ハロ酢酸 [HAA5]）	毎年
鉛、銅	毎年
無機化合物	毎年/年4回 ¹
揮発性有機化合物	毎年
ポリ塩化ビフェニル、農薬類	3年に1回
アスベスト	9年に1回

注1.無機化合物のうち、河川等を水源とする水道の検査で総硝酸態窒素亜硝酸態窒素は年4回行われます。

検査結果

水質検査で検出された物質は次の表のとおりです。混入物質が検出されるということは必ずしも私達の健康を害するという事ではありません。箱崎燃料ターミナルの水道水は水質基準に適合し、安全に飲用することができます。

水質基準項目	目標値 (MCLG or MRDLG)	基準値 (MCL, TT or, MRDL)	検査結果		検査年	水質基準 違反	主な混入源
			下限	上限			
消毒剤及び消毒副生成物							
残留塩素 (ppm)	4	4 ¹	0.27	.79	2019	なし ²	消毒用添加物
ハロ酢酸 [HAA5] (ppb)	NA	60	NA ³	14.4	2019	なし	水道水塩素消毒副生成物
総トリハロメタン [TTHMs] (ppb)	NA	80	NA ³	20.6	2019	なし	水道水塩素消毒副生成物
無機化合物							
硝酸性窒素 (ppm)	10	10	NA ³	0.7	2019	なし	肥料、浄化槽、下水、自然由来
ナトリウム (ppm)	NA	NA	NA ³	6.5	2019	なし	自然由来
注1：残留塩素はMRDLが適用されます。							
注2：バクテリアの繁殖を防ぐため水道中に0.2mg/l以上の残留塩素が必要とされています。							
注3：サンプル数が1検体のみのため、下限は該当なしとしています。							

水質基準項目	目標値 (MCLG)	基準値 (AL)	90パー セント イル値	検査年	基準値 超過数	基準超過	主な混入源
無機化合物							
銅(ppm)	1.3	1.3	0.0325	2019	0	なし	屋内水道配管腐食、自然由来
鉛(ppb)	0	15	2.7	2019	0	なし	屋内水道配管腐食、自然由来

略語と意味:

- AL:** アクションレベル値。超過した場合、定められた追加処置をしなければならない濃度。超過は90パーセントイル値から判断します。
- MCL:** 最大許容混入値。水道水として許容できる混入量の最大値。可能な限り最大許容混入目標値に近く設定されています。
- MCLG:** 最大許容混入目標値。水道水中の混入物による健康リスクがなくなるとされる目標値。
- MRDL:** 最大残留消毒剤濃度。水道水中で許容される残留消毒剤の最大値。消毒剤の使用は微生物の発生を抑制するために必要とされます。
- MRDLG:** 最大残留消毒剤濃度目標。水道水中の残留消毒剤による健康リスクがなくなるとされる目標値。但し、消毒効果を考慮した値ではありません。
- NA:** 該当なし。
- ND:** 不検出。
- ppm:** パーツ・パー・ミリオン。mg/L（ミリグラム・パー・リットル）と同等。
- ppb:** パーツ・パー・ビリオン。μg/L（マイクログラム・パー・リットル）と同等。
- TT:** トリートメントテクニック。水道水中の混入物質を低減させるために必要な処置のこと。
- 90パーセントイル値:** 採取された全ての水道サンプルのうち90%のサンプルが示す最大値。90パーセントイル値がAL値を超過した場合、適切な軽減措置をとることが定められています。

連絡先

質問などは基地環境課までお問い合わせください：

Yoshiaki Kanazawa (243-6460) Yoshiaki.Kanazawa.ja@fe.navy.mil

Loreal Spear (243-9520) Loreal.spear@fe.navy.mil



2019年水道水質白書

鶴見OU-1 & 2

横須賀基地司令部



水道水質白書は海軍施設部隊司令部(CNIC)インストラクション 5090.1A 2018年6月29日の規定により毎年発行されるレポートです。このレポートには2019年の水質検査結果が反映されています。

水道水質白書は水道水の水源、水質、水道関連規則などについて説明する毎年発行されるレポートです。このレポートでは2019年に鶴見OU-1&2で供給された水道水について情報を提供しています。鶴見の水道水は安全に飲用できます。横須賀基地では常に安心して安全な水を供給することを目標としています。

水源

鶴見の水道水は横浜市水道局から供給されています。相模川から取水された水は、横浜市水道局が急速ろ過方式による浄水と塩素による消毒をしています。

配水施設

水道局から送水された水道水は、横須賀基地施設管理部(CFAY PWD)が基地内の各施設へ配水しています。長井通信施設ではフッ素添加などの処理は行わず、購入した水を直接配水しています。



水道関連規則の遵守

海軍では海軍施設部隊司令部(CNIC)インストラクション 5090.1Aにより、日本を含む全ての海外に駐留する海軍基地で米国安全飲料水法に基づく第1種飲料水規則等の基準に遵守することが義務付けられています。また、在日米軍に適用される日本環境管理基準(JEGS)の水道に関する各規則も遵守する義務があります。JEGSは日本で活動する米軍が自然環境や従業員の健康を守るため、水道・大気・廃棄物などさまざまな環境分野で遵守すべき基準を定めています。

信頼性の高い水道水を供給するため、基地水道品質委員会(IWQB)が設置され海軍海外水道(ODW)プログラムの全規則を遵守するために様々な対策を実施しています。横須賀基地の水道システムは地域水道品質委員会より条件付運用許可を得て運営されていますが、完全な運用許可(CTO)を得るために衛生監査の重要指摘事項をすべて是正するための対策を実行しています。

水源アセスメント

海軍水道品質監視委員会(WQOC)による衛生監査が3年に一度横須賀基地水道システムで行われます。この監査は安全な水道を供給するために水源管理、施設、設備、運転、メンテナンスなどが適切に行われているか評価するものです。また基地環境課による内部監査も毎年実施されています。これらの監査報告書に基づいて、継続的な水道システムの向上を図っています。次の衛生監査は2020年に予定されています。

健康に関する重要なお知らせ

化学療法で治療中のがん患者、移植手術患者、エイズ患者、一部の高齢者や乳児など免疫力の低下している人はより敏感に水道水混入物質に反応することがあり、特に感染症を発症する可能性が他の人より高くなる場合があります。当てはまる場合は基地の水道水の利用について医師などに相談することをお勧めします。米国環境保護庁（EPA）と疾病対策センターはクリプトスポリジウムなどの微生物による感染症対策のガイドラインなどを提供するホットラインを設けています。電話：1-800-426-4791

規則の免除

すべての ODW システムは海軍規則により、認証を受けた分析機関で、EPA が承認した水道分析方法による水質検査を実施しています。水質検査の内、大腸菌、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素の検査は、米国 EPA の承認を受けていない日本国内の分析機関に依頼しています。この分析機関は、EPA の基準と同等の品質管理能力があると WQOC により確認され、2020 年 5 月に EPA 承認分析機関に関する規則の免除が認められました。

混入する可能性がある物質

水道水やペットボトルなどの飲料水には水以外の不純物も含まれています。水道水に微量の不純物が混入するという事は、必ずしも私達の健康を害するという事ではありません。混入物質やその健康への影響の詳細は、EPA のホットライン 1-800-426-4791 やウェブサイトで確認できます。

<https://www.epa.gov/dwstandardsregulations/drinking-water-contaminant-human-health-effects-information>

水源となる河川やダムなどの水は、地表を流れたり地下を通過する過程で放射性物質を含む様々な成分が自然に溶け込みます。また、動物や人間の活動に由来する不純物が混入することも考えられます。混入する不純物には次のような物質が考えられます；

- 汚水処理施設、浄化槽、家畜、野生生物などによるバクテリアやウイルスなどの微生物。
- 自然由来や都市の雨水、下水、石油精製や農業などによる塩や金属などの無機物。
- 農業、都市の雨水や家庭での使用などによる農薬。
- 工場などで発生する揮発性有機物、石油精製、ガソリンスタンド、都市の下水などによる有機物。
- 自然に由来する場合や石油・ガス生産や鉱山などによる放射性物質。

水道水の安全を保つために EPA や JEGS により水質基準が設けられています。米国製ペットボトルの水質基準は米国食品医薬品局(FDA)が定めています。

その他の混入物質

鉛

蛇口や配管などの給水設備に含まれる微量の鉛成分が水道水中に溶け出すことがあります。鉛濃度が高いと、特に妊婦や子供の健康に影響を与える可能性があります。蛇口を数時間以上使用してないと鉛が溶け込む可能性があり、水道を使用する前に 30 秒から 2 分ほど水を流すことで鉛の摂取量を減らすことができます。横須賀基地では毎年ハウジングエリアなどで鉛の分析を実施しています。EPA のウェブサイトでは水道水中の鉛について詳しく説明しています。<http://www.epa.gov/safewater/lead>

水質検査

横須賀基地では米国環境保護庁と日本の分析方法を用いて定期的に定められた分析項目・頻度で水質検査を実施しています。

項目	検査頻度
pH、残留塩素、濁度	毎時
大腸菌	毎月
消毒副生成物（総トリハロメタン [TTHM]、ハロ酢酸 [HAA5]）	毎年
鉛、銅、	毎年
無機化合物	毎年/年4回 ¹
揮発性有機化合物	毎年
ポリ塩化ビフェニル、農薬類	3年に1回
アスベスト	9年に1回

注1.無機化合物のうち、河川等を水源とする水道の検査で総硝酸態窒素亜硝酸態窒素は年4回行われます。

検査結果

水質検査で検出された物質は次の表のとおりです。混入物質が検出されるということは必ずしも私達の健康を害するという事ではありません。鶴見OU-1&2の水道水は水質基準に適合し、安全に飲用することができます。

水質基準項目	目標値 (MCLG or MRDLG)	基準値 (MCL, TT or, MRDL)	検査結果		検査年	水質基準 違反	主な混入源
			下限	上限			
消毒剤及び消毒副生成物							
残留塩素 (ppm)	4	4 ¹	0.48	.71	2019	なし ²	消毒用添加物
ハロ酢酸 [HAA5] (ppb)	NA	60	NA ³	14.4	2019	なし	水道水塩素消毒副生成物
総トリハロメタン [TTHMs] (ppb)	NA	80	NA ³	19.8	2019	なし	水道水塩素消毒副生成物
無機化合物							
バリウム (ppm)	2	2	NA ³	0.0019	2019	なし	掘削工事排水、製鉄所排水、自然由来
硝酸性窒素 (ppm)	10	10	NA ³	0.8	2019	なし	肥料、浄化槽、下水、自然由来
ナトリウム (ppm)	NA	NA	NA ³	6.4	2019	なし	自然由来
注1：残留塩素はMRDLGが適用されます。							
注2：バクテリアの繁殖を防ぐため水道中に0.2mg/l以上の残留塩素が必要とされています。							
注3：サンプル数が1検体のみのため、下限は該当なしとしています。							

水質基準項目	目標値 (MCLG)	基準値 (AL)	90パー セント イル値	検査年	基準値 超過数	基準超過	主な混入源
無機化合物							
銅 (ppm)	1.3	1.3	0.0645	2019	0	なし	屋内水道配管腐食、自然由来
鉛 (ppb)	0	15	1.225	2019	0	なし	屋内水道配管腐食、自然由来

略語と意味：

- AL:** アクションレベル値。超過した場合、定められた追加処置をしなければならぬ濃度。超過は90パーセント値から判断します。
- MCL:** 最大許容混入値。水道水として許容できる混入量の最大値。可能な限り最大許容混入目標値に近く設定されています。
- MCLG:** 最大許容混入目標値。水道水中の混入物による健康リスクがなくなるとされる目標値。
- MRDL:** 最大残留消毒剤濃度。水道水中で許容される残留消毒剤の最大値。消毒剤の使用は微生物の発生を抑制するために必要とされます。
- MRDLG:** 最大残留消毒剤濃度目標。水道水中の残留消毒剤による健康リスクがなくなるとされる目標値。但し、消毒効果を考慮した値ではありません。
- NA:** 該当なし。
- ND:** 不検出。
- ppm:** パーツ・パー・ミリオン。mg/L（ミリグラム・パー・リットル）と同等。
- ppb:** パーツ・パー・ビリオン。μg/L（マイクログラム・パー・リットル）と同等。
- TT:** トリートメントテクニック。水道水中の混入物質を低減させるために必要な処置のこと。
- 90パーセント値:** 採取された全ての水道サンプルのうち90%のサンプルが示す最大値。90パーセント値がAL値を超過した場合、適切な軽減措置をとることが定められています。

連絡先

質問などは基地環境課までお問い合わせください：

Yoshiaki Kanazawa (243-6460) Yoshiaki.Kanazawa.ja@fe.navy.mil

Loreal Spear (243-9520) Loreal.spear@fe.navy.mil



2019年水道水質白書

FMC

横須賀基地司令部



水道水質白書は海軍施設部隊司令部(CNIC)インストラクション 5090.1A 2018年6月29日の規定により毎年発行されるレポートです。このレポートには2019年の水質検査結果が反映されています。

水道水質白書は水道水の水源、水質、水道関連規則などについて説明する毎年発行されるレポートです。このレポートでは2019年にFMCで供給された水道水について情報を提供しています。FMCの水道水は安全に飲用できます。横須賀基地では常に安心して安全な水を供給することを目標としています。

水源

FMCの水道水は横浜市水道局から供給されています。相模湖から取水された水は、横浜市水道局が急速ろ過方式による浄水と塩素による消毒をしています。

配水施設

水道局から送水された水道水は、横須賀基地施設管理部(CFAY PWD)が基地内の各施設へ配水しています。FMCではフッ素添加などの処理は行わず、購入した水をそのまま配水しています。



水道関連規則の遵守

海軍では海軍施設部隊司令部(CNIC)インストラクション 5090.1Aにより、日本を含む全ての海外に駐留する海軍基地で米国安全飲料水法に基づく第1種飲料水規則等の基準に遵守することが義務付けられています。また、在日米軍に適用される日本環境管理基準(JEGS)の水道に関する各規則も遵守する義務があります。JEGSは日本で活動する米軍が自然環境や従業員の健康を守るため、水道・大気・廃棄物などさまざまな環境分野で遵守すべき基準を定めています。

信頼性の高い水道水を供給するため、基地水道品質委員会(IWQB)が設置され海軍海外水道(ODW)プログラムの全規則を遵守するために様々な対策を実施しています。横須賀基地の水道システムは地域水道品質委員会(RWQB)より条件付運用許可を得て運営されていますが、完全な運用許可(CTO)を得るために衛生監査の重要指摘事項をすべて是正するための対応策を実行しています。

水源アセスメント

海軍水道品質監視委員会(WQOC)による衛生監査が3年に一度横須賀基地水道システムで行われます。この監査は安全な水道を供給するために水源管理、施設、設備、運転、メンテナンスなどが適切に行われているか評価するものです。また基地環境課による内部監査も毎年実施されています。これらの監査報告書に基づいて、継続的な水道システムの向上を図っています。次の衛生監査は2020年に予定されています。

健康に関する重要なお知らせ

化学療法で治療中のがん患者、移植手術患者、エイズ患者、一部の高齢者や乳児など免疫力の低下している人はより敏感に水道水混入物質に反応することがあり、特に感染症を発症する可能性が他の人より高くなる場合があります。当てはまる場合は基地の水道水の利用について医師などに相談することをお勧めします。米国環境保護庁（EPA）と疾病対策センターはクリプトスポリジウムなどの微生物による感染症対策のガイドラインなどを提供するホットラインを設けています。電話：1-800-426-4791

規則の免除

すべての ODW システムは海軍規則により、認証を受けた分析機関で、EPA が承認した水道分析方法による水質検査を実施しています。水質検査の内、大腸菌、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素の検査は、米国 EPA の承認を受けていない日本国内の分析機関に依頼しています。この分析機関は、EPA の基準と同等の品質管理能力があると WQOC により確認され、2020 年 5 月に EPA 承認分析機関に関する規則の免除が認められました。

混入する可能性がある物質

水道水やペットボトルなどの飲料水には水以外の不純物も含まれています。水道水に微量の不純物が混入するということは、必ずしも私達の健康を害するという事ではありません。混入物質やその健康への影響の詳細は、EPA のホットライン 1-800-426-4791 やウェブサイトで確認できます。

<https://www.epa.gov/dwstandardsregulations/drinking-water-contaminant-human-health-effects-information>

水源となる河川やダムなどの水は、地表を流れたり地下を通過する過程で放射性物質を含む様々な成分が自然に溶け込みます。また、動物や人間の活動に由来する不純物が混入することも考えられます。混入する不純物には次のような物質が考えられます；

- 汚水処理施設、浄化槽、家畜、野生生物などによるバクテリアやウイルスなどの微生物。
- 自然由来や都市の雨水、下水、石油精製や農業などによる塩や金属などの無機物。
- 農業、都市の雨水や家庭での使用などによる農薬。
- 工場などで発生する揮発性有機物、石油精製、ガソリンスタンド、都市の下水などによる有機物。
- 自然に由来する場合や石油・ガス生産や鉱山などによる放射性物質。

水道水の安全を保つために EPA や JEGS により水質基準が設けられています。米国製ペットボトルの水質基準は米国食品医薬品局(FDA)が定めています。

その他の混入物質

鉛

蛇口や配管などの給水設備に含まれる微量の鉛成分が水道水中に溶け出すことがあります。鉛濃度が高いと、特に妊婦や子供の健康に影響を与える可能性があります。蛇口を数時間以上使用してないと鉛が溶け込む可能性があり、水道を使用する前に 30 秒から 2 分ほど水を流すことで鉛の摂取量を減らすことができます。横須賀基地では毎年ハウジングエリアなどで鉛の分析を実施しています。EPA のウェブサイトでは水道水中の鉛について詳しく説明しています。<http://www.epa.gov/safewater/lead>

水質検査

横須賀基地では米国環境保護庁と日本の分析方法を用いて定期的に定められた分析項目・頻度で水質検査を実施しています。

項目	検査頻度
pH、残留塩素、濁度	毎時
大腸菌	毎月
消毒副生成物（総トリハロメタン [TTHM]、ハロ酢酸 [HAA5]）	毎年
鉛、銅	毎年
無機化合物	毎年/年4回 ¹
揮発性有機化合物	毎年
ポリ塩化ビフェニル、農薬類	3年に1回
アスベスト	9年に1回

注1.無機化合物のうち、河川等を水源とする水道の検査で総硝酸態窒素亜硝酸態窒素は年4回行われます。

検査結果

水質検査で検出された物質は次の表のとおりです。混入物質が検出されるということは必ずしも私達の健康を害するという事ではありません。FMCの水道水は水質基準に適合し、安全に飲用することができます。

水質基準項目	目標値 (MCLG or MRDLG)	基準値 (MCL, TT or, MRDL)	検査結果		検査年	水質基準 違反	主な混入源
			下限	上限			
消毒剤及び消毒副生成物							
残留塩素 (ppm)	4	4 ¹	0.55	.84	2019	なし ²	消毒用添加物
ハロ酢酸 [HAA5] (ppb)	NA	60	NA ³	12.3	2019	なし	水道水塩素消毒副生成物
総トリハロメタン [TTHMs] (ppb)	NA	80	NA ³	11.9	2019	なし	水道水塩素消毒副生成物
無機化合物							
バリウム (ppm)	2	2	NA ³	0.0028	2019	なし	掘削工事排水、製鉄所排水、 自然由来
硝酸性窒素 (ppm)	10	10	NA ³	1.0	2019	なし	肥料、浄化槽、下水、自然由来
ナトリウム (ppm)	NA	NA	NA ³	6.5	2019	なし	自然由来
揮発性有機化合物							
トルエン (ppm)	1	1	ND	0.00077	2019	なし	石油精製排水

注1：残留塩素はMRDLが適用されます。
注2：バクテリアの繁殖を防ぐため水道中に0.2mg/l以上の残留塩素が必要とされています。
注3：サンプル数が1検体のみのため、下限は該当なしとしています。

水質基準項目	目標値 (MCLG)	基準値 (AL)	90パー セント イル値	検査年	基準値超 過数	基準超過	主な混入源
無機化合物							
銅 (ppm)	1.3	1.3	0.079	2019	0	なし	屋内水道配管腐食、自然由来
鉛 (ppb)	0	15	2.0	2019	0	なし	屋内水道配管腐食、自然由来

略語と意味：

- AL:** アクションレベル値。超過した場合、定められた追加処置をしなければならぬ濃度。超過は90パーセント値から判断します。
- MCL:** 最大許容混入値。水道水として許容できる混入量の最大値。可能な限り最大許容混入目標値に近く設定されています。
- MCLG:** 最大許容混入目標値。水道水中の混入物による健康リスクがなくなるとされる目標値。
- MRDL:** 最大残留消毒剤濃度。水道水中で許容される残留消毒剤の最大値。消毒剤の使用は微生物の発生を抑制するために必要とされます。
- MRDLG:** 最大残留消毒剤濃度目標。水道水中の残留消毒剤による健康リスクがなくなるとされる目標値。但し、消毒効果を考慮した値ではありません。
- NA:** 該当なし。
- ND:** 不検出。
- ppm:** パーツ・パー・ミリオン。mg/L（ミリグラム・パー・リットル）と同等。
- ppb:** パーツ・パー・ビリオン。μg/L（マイクログラム・パー・リットル）と同等。
- TT:** トリートメントテクニック。水道水中の混入物質を低減させるために必要な処置のこと。
- 90パーセント値:** 採取された全ての水道サンプルのうち90%のサンプルが示す最大値。90パーセント値がAL値を超過した場合、適切な軽減措置をとることが定められています。

連絡先

質問などは基地環境課までお問い合わせください：

Yoshiaki Kanazawa (243-6460) Yoshiaki.Kanazawa.ja@fe.navy.mil

Loreal Spear (243-9520) Loreal.spear@fe.navy.mil



2019年水道水質白書

長井通信施設

横須賀基地司令部



水道水質白書は海軍施設部隊司令部(CNIC)インストラクション 5090.1A 2018年6月29日の規定により毎年発行されるレポートです。このレポートには2019年の水質検査結果が反映されています。

水道水質白書は水道水の水源、水質、水道関連規則などについて説明する毎年発行されるレポートです。このレポートでは2019年に長井通信施設で供給された水道水について情報を提供しています。横須賀基地では常に安心して安全な水を供給することを目標としています。

水源

長井通信施設の水道水は横須賀市上下水道局から供給されています。相模川と酒匂川から取水された水は、横須賀市上下水道局が急速ろ過方式による浄水と塩素による消毒をしています。

配水施設

水道局から送水された水道水は、横須賀基地施設管理部(CFAY PWD)が基地内の各施設へ配水しています。長井通信施設ではフッ素添加などの処理は行わず、購入した水を直接配水しています。



水道関連規則の遵守

海軍では海軍施設部隊司令部(CNIC)インストラクション 5090.1Aにより、日本を含む全ての海外に駐留する海軍基地で米国安全飲料水法に基づく第1種飲料水規則等の基準に遵守することが義務付けられています。また、在日米軍に適用される日本環境管理基準(JEGS)の水道に関する各規則も遵守する義務があります。JEGSは日本で活動する米軍が自然環境や従業員の健康を守るため、水道・大気・廃棄物などさまざまな環境分野で遵守すべき基準を定めています。

信頼性の高い水道水を供給するため、基地水道品質委員会(IWQB)が設置され海軍海外水道(ODW)プログラムの全規則を遵守するために様々な対策を実施しています。横須賀基地の水道システムは地域水道品質委員会(RWQB)より条件付運用許可を得て運営されていますが、完全な運用許可(CTO)を得るために衛生監査の重要指摘事項をすべて是正するための対策を実行しています。

水源アセスメント

海軍水道品質監視委員会(WQOC)による衛生監査が3年に一度横須賀基地水道システムで行われます。この監査は安全な水道を供給するために水源管理、施設、設備、運転、メンテナンスなどが適切に行われているか評価するものです。また基地環境課による内部監査も毎年実施されています。これらの監査報告書に基づいて、継続的な水道システムの向上を図っています。次の衛生監査は2020年に予定されています。

健康に関する重要なお知らせ

化学療法で治療中のがん患者、移植手術患者、エイズ患者、一部の高齢者や乳児など免疫力の低下している人はより敏感に水道水混入物質に反応することがあり、特に感染症を発症する可能性が他の人より高くなる場合があります。当てはまる場合は基地の水道水の利用について医師などに相談することをお勧めします。米国環境保護庁（EPA）と疾病対策センターはクリプトスポリジウムなどの微生物による感染症対策のガイドラインなどを提供するホットラインを設けています。電話：1-800-426-4791

規則の免除

すべての ODW システムは海軍規則により、認証を受けた分析機関で、EPA が承認した水道分析方法による水質検査を実施しています。水質検査の内、大腸菌、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素の検査は、米国 EPA の承認を受けていない日本国内の分析機関に依頼しています。この分析機関は、EPA の基準と同等の品質管理能力があると WQOC により確認され、2020 年 5 月に EPA 承認分析機関に関する規則の免除が認められました。

混入する可能性がある物質

水道水やペットボトルなどの飲料水には水以外の不純物も含まれています。水道水に微量の不純物が混入するということは、必ずしも私達の健康を害するという事ではありません。混入物質やその健康への影響の詳細は、EPA のホットライン 1-800-426-4791 やウェブサイトで確認できます。

<https://www.epa.gov/dwstandardsregulations/drinking-water-contaminant-human-health-effects-information>

水源となる河川やダムなどの水は、地表を流れたり地下を通過する過程で放射性物質を含む様々な成分が自然に溶け込みます。また、動物や人間の活動に由来する不純物が混入することも考えられます。混入する不純物には次のような物質が考えられます；

- 汚水処理施設、浄化槽、家畜、野生生物などによるバクテリアやウイルスなどの微生物。
- 自然由来や都市の雨水、下水、石油精製や農業などによる塩や金属などの無機物。
- 農業、都市の雨水や家庭での使用などによる農薬。
- 工場などで発生する揮発性有機物、石油精製、ガソリンスタンド、都市の下水などによる有機物。
- 自然に由来する場合や石油・ガス生産や鉱山などによる放射性物質。

水道水の安全を保つために EPA や JEGS により水質基準が設けられています。米国製ペットボトルの水質基準は米国食品医薬品局(FDA)が定めています。

その他の混入物質

鉛

蛇口や配管などの給水設備に含まれる微量の鉛成分が水道水中に溶け出すことがあります。鉛濃度が高いと、特に妊婦や子供の健康に影響を与える可能性があります。蛇口を数時間以上使用してないと鉛が溶け込む可能性があり、水道を使用する前に30秒から2分ほど水を流すことで鉛の摂取量を減らすことができます。横須賀基地では毎年ハウジングエリアなどで鉛の分析を実施しています。EPA のウェブサイトでは水道水中の鉛について詳しく説明しています。<http://www.epa.gov/safewater/lead>

米国環境保護庁（EPA）は米国安全飲料水法に基づいて水道水の鉛アクションレベル値（AL）を15µg/L（マイクログラム・パー・リットル）と定めています。飲用に使用される水栓において全水道検査の90%がこのアクションレベル値を満たさなければいけません（90パーセンタイル値）。もし90パーセンタイル値がアクションレベルを超過した場合、半年ごとの水道検査やその他の適切な対策を講じて問題を解決しなければなりません。長井水道システムでは2018年8月の水道検査で22 µg/Lの鉛が検出されアクションレベル値を超過しました。そのため蛇口の使用を制限し手洗いのみ利用可能として、長井

の水道ユーザーには90パーセント値を超過したことや鉛の健康への影響、原因、水道水中の鉛を減らすためにできることなどをお知らせする資料を配布しました。

2019年8月には90パーセント値 17µg/L の鉛が検出され、アクションレベルの超過が継続しています。このため引き続き水道使用の制限をおこなっており、飲用することはできません。施設管理部が鉛低減用のフィルターを設置する予定です。

水質検査

横須賀基地では米国環境保護庁と日本の分析方法を用いて定期的に定められた分析項目・頻度で水質検査を実施しています。

項目	検査頻度
pH、残留塩素	毎月
大腸菌	毎月
消毒副生成物（総トリハロメタン [TTHM]、ハロ酢酸 [HAA5]）	毎年
鉛、銅	毎年（鉛は年2回）
無機化合物	毎年/年4回 ¹
揮発性有機化合物	年4回
ポリ塩化ビフェニル、農薬類	年4回
アスベスト	9年に1回

注1.無機化合物のうち、河川等を水源とする水道の検査で総硝酸態窒素亜硝酸態窒素は年4回行われます。

検査結果

水質検査で検出された物質は次の表のとおりです。混入物質が検出されるということは必ずしも私達の健康を害するという事ではありません。

水質基準項目	目標値 (MCLG or MRDLG)	基準値 (MCL, TT or, MRDL)	検査結果		検査年	水質基準違反	主な混入源
			下限	上限			
消毒剤及び消毒副生成物							
残留塩素 (ppm)	4	4 ¹	0.32	.59	2019	なし ²	消毒用添加物
ハロ酢酸 [HAA5] (ppb)	NA	60	NA ³	21.4	2019	なし	水道水塩素消毒副生成物
総トリハロメタン [TTHMs] (ppb)	NA	80	NA ³	23.9	2019	なし	水道水塩素消毒副生成物
無機化合物							
バリウム (ppm)	2	2	NA ³	0.0032	2019	なし	掘削工事排水、製鉄所排水、自然由来
硝酸性窒素 (ppm)	10	10	NA ³	0.9	2019	なし	肥料、浄化槽、下水、自然由来
ナトリウム (ppm)	NA	NA	NA ³	7.3	2019	なし	自然由来
注1：残留塩素はMRDLが適用されます。							
注2：バクテリアの繁殖を防ぐため水道中に0.2mg/l以上の残留塩素が必要とされています。							
注3：サンプル数が1検体のみのため、下限は該当なしとしています。							

水質基準項目	目標値 (MCLG)	基準値 (AL)	90パー センタ イル値	検査年	基準値 超過数	基準超過	主な混入源
無機化合物							
銅 (ppm)	1.3	1.3	0.05	2019	0	なし	屋内水道配管腐食、自然由来
鉛 (ppb)	0	15	17	2019	1	あり	屋内水道配管腐食、自然由来

略語と意味：

- AL:** アクションレベル値。超過した場合、定められた追加処置をしなければならない濃度。超過は90パーセントイル値から判断します。
- MCL:** 最大許容混入値。水道水として許容できる混入量の最大値。可能な限り最大許容混入目標値に近く設定されています。
- MCLG:** 最大許容混入目標値。水道水中の混入物による健康リスクがなくなるとされる目標値。
- MRDL:** 最大残留消毒剤濃度。水道水中で許容される残留消毒剤の最大値。消毒剤の使用は微生物の発生を抑制するために必要とされます。
- MRDLG:** 最大残留消毒剤濃度目標。水道水中の残留消毒剤による健康リスクがなくなるとされる目標値。但し、消毒効果を考慮した値ではありません。
- NA:** 該当なし。
- ND:** 不検出。
- ppm:** パーツ・パー・ミリオン。mg/L（ミリグラム・パー・リットル）と同等。
- ppb:** パーツ・パー・ビリオン。μg/L（マイクログラム・パー・リットル）と同等。
- TT:** トリートメントテクニック。水道水中の混入物質を低減させるために必要な処置のこと。
- 90パーセントイル値:** 採取された全ての水道サンプルのうち90%のサンプルが示す最大値。90パーセントイル値がAL値を超過した場合、適切な軽減措置をとることが定められています。

連絡先

質問などは基地環境課までお問い合わせください：

Yoshiaki Kanazawa (243-6460) Yoshiaki.Kanazawa.ja@fe.navy.mil

Loreal Spear (243-9520) Loreal.spear@fe.navy.mil



2019年水道水質白書

根岸住宅地区

横須賀基地司令部



水道水質白書は海軍施設部隊司令部(CNIC)指針書インストラクション 5090.1A 2018年6月29日の規定により毎年発行されるレポートです。このレポートには2019年の水質検査結果が反映されています。

水道水質白書は水道水の水源、水質、水道関連規則などについて説明する毎年発行されるレポートです。このレポートでは2019年に根岸住宅地区消防署で供給された水道水について情報を提供していません。根岸住宅地区の水道水は安全に飲用できます。横須賀基地では常に安心して安全な水を供給することを目標としています。

水源

根岸住宅地区の水道水は横浜市水道局から供給されています。相模湖から取水された水は、横浜市水道局が急速ろ過方式による浄水と塩素による消毒をしています。

配水施設

水道局から送水された水道水は、横須賀基地施設管理部(CFAY PWD)が基地内の各施設へ配水しています。根岸ではフッ素添加などの処理は行わず、購入した水を直接配水しています。現在根岸では消防署建物のみ水道の供給がされています。



水道関連規則の遵守

海軍では海軍施設部隊司令部(CNIC)インストラクション 5090.1Aにより、日本を含む全ての海外に駐留する海軍基地で米国安全飲料水法に基づく第1種飲料水規則等の基準に遵守することが義務付けられています。また、在日米軍に適用される日本環境管理基準(JEGS)の水道に関する各規則も遵守する義務があります。JEGSは日本で活動する米軍が自然環境や従業員の健康を守るため、水道・大気・廃棄物などさまざまな環境分野で遵守すべき基準を定めています。

信頼性の高い水道水を供給するため、基地水道品質委員会(IWQB)が設置され海軍海外水道(ODW)プログラムの全規則を遵守するために様々な対策を実施しています。横須賀基地の水道システムは地域水道品質委員会より条件付運用許可を得て運営されていますが、完全な運用許可(CTO)を得るために衛生監査の重要指摘事項をすべて是正するための対策を実行しています。

水源アセスメント

海軍水道品質監視委員会(WQOC)による衛生監査が3年に一度横須賀基地水道システムで行われます。この監査は安全な水道を供給するために水源管理、施設、設備、運転、メンテナンスなどが適切に行われているか評価するものです。また基地環境課による内部監査も毎年実施されています。これらの監査報告書に基づいて、継続的な水道システムの向上を図っています。次の衛生監査は2020年に予定されています。

健康に関する重要なお知らせ

化学療法で治療中のがん患者、移植手術患者、エイズ患者、一部の高齢者や乳児など免疫力の低下している人はより敏感に水道水混入物質に反応することがあり、特に感染症を発症する可能性が他の人より高くなる場合があります。当てはまる場合は基地の水道水の利用について医師などに相談することをお勧めします。米国環境保護庁（EPA）と疾病対策センターはクリプトスポリジウムなどの微生物による感染症対策のガイドラインなどを提供するホットラインを設けています。電話：1-800-426-4791

規則の免除

すべての ODW システムは海軍規則により、認証を受けた分析機関で、EPA が承認した水道分析方法による水質検査を実施しています。水質検査の内、大腸菌、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素の検査は、米国 EPA の承認を受けていない日本国内の分析機関に依頼しています。この分析機関は、EPA の基準と同等の品質管理能力があると WQOC により確認され、2020 年 5 月に EPA 承認分析機関に関する規則の免除が認められました。

混入する可能性がある物質

水道水やペットボトルなどの飲料水には水以外の不純物も含まれています。水道水に微量の不純物が混入するということは、必ずしも私達の健康を害するという事ではありません。混入物質やその健康への影響の詳細は、EPA のホットライン 1-800-426-4791 やウェブサイトで確認できます。

<https://www.epa.gov/dwstandardsregulations/drinking-water-contaminant-human-health-effects-information>

水源となる河川やダムなどの水は、地表を流れたり地下を通過する過程で放射性物質を含む様々な成分が自然に溶け込みます。また、動物や人間の活動に由来する不純物が混入することも考えられます。混入する不純物には次のような物質が考えられます；

- 汚水処理施設、浄化槽、家畜、野生生物などによるバクテリアやウイルスなどの微生物。
- 自然由来や都市の雨水、下水、石油精製や農業などによる塩や金属などの無機物。
- 農業、都市の雨水や家庭での使用などによる農薬。
- 工場などで発生する揮発性有機物、石油精製、ガソリンスタンド、都市の下水などによる有機物。
- 自然に由来する場合や石油・ガス生産や鉱山などによる放射性物質。

水道水の安全を保つために EPA や JEGS により水質基準が設けられています。米国製ペットボトルの水質基準は米国食品医薬品局(FDA)が定めています。

その他の混入物質

鉛

蛇口や配管などの給水設備に含まれる微量の鉛成分が水道水中に溶け出すことがあります。鉛濃度が高いと、特に妊婦や子供の健康に影響を与える可能性があります。蛇口を数時間以上使用してないと鉛が溶け込む可能性があり、水道を使用する前に30秒から2分ほど水を流すことで鉛の摂取量を減らすことができます。横須賀基地では毎年ハウジングエリアなどで鉛の分析を実施しています。EPA のウェブサイトでは水道水中の鉛について詳しく説明しています。<http://www.epa.gov/safewater/lead>

水質検査

横須賀基地では米国環境保護庁と日本の分析方法を用いて定期的に定められた分析項目・頻度で水質検査を実施しています。

項目	検査頻度
pH、残留塩素	毎月
大腸菌	毎月
消毒副生成物（総トリハロメタン [TTHM]、ハロ酢酸 [HAA5]）	毎年
鉛、銅	毎年
ポリ塩化ビフェニル、農薬類	3年に1回
無機化合物	毎年/年4回 ¹
揮発性有機化合物	毎年
アスベスト	9年に1回

注1.無機化合物のうち、河川等を水源とする水道の検査で総硝酸態窒素亜硝酸態窒素は年4回行われます。

検査結果

水質検査で検出された物質は次の表のとおりです。混入物質が検出されるということは必ずしも私達の健康を害するという事ではありません。根岸住宅地区の水道水は水質基準に適合し、安全に飲むことができます。

水質基準項目	目標値 (MCLG or MRDLG)	基準値 (MCL, TT or, MRDL)	検査結果		検査年	水質基準違反	主な混入源
			下限	上限			
消毒剤及び消毒副生成物							
残留塩素 (ppm)	4	4 ¹	0.35	.70	2019	なし ²	消毒用添加物
ハロ酢酸 [HAA5] (ppb)	NA	60	NA ³	12.5	2019	なし	水道水塩素消毒副生成物
総トリハロメタン [TTHMs] (ppb)	NA	80	NA ³	12.3	2019	なし	水道水塩素消毒副生成物
無機化合物							
バリウム (ppm)	2	2	NA ³	0.0029	2019	なし	掘削工事排水、製鉄所排水、自然由来
硝酸性窒素 (ppm)	10	10	NA ³	1.0	2019	なし	肥料、浄化槽、下水、自然由来
ナトリウム (ppm)	NA	NA	NA ³	6.7	2019	なし	自然由来
注1：残留塩素はMRDLが適用されます。							
注2：バクテリアの繁殖を防ぐため水道中に0.2mg/l以上の残留塩素が必要とされています。							
注3：サンプル数が1検体のみのため、下限は該当なしとしています。							

水質基準項目	目標値 (MCLG)	基準値 (AL)	90パーセント イル値	検査年	基準値 超過数	基準超過	主な混入源
無機化合物							
銅 (ppm)	1.3	1.3	0.23	2019	0	なし	屋内水道配管腐食、自然由来
鉛 (ppb)	0	15	0.001	2019	0	なし	屋内水道配管腐食、自然由来

略語と意味：

- AL:** アクションレベル値。超過した場合、定められた追加処置をしなければならぬ濃度。超過は90パーセント値から判断します。
- MCL:** 最大許容混入値。水道水として許容できる混入量の最大値。可能な限り最大許容混入目標値に近く設定されています。
- MCLG:** 最大許容混入目標値。水道水中の混入物による健康リスクがなくなるとされる目標値。
- MRDL:** 最大残留消毒剤濃度。水道水中で許容される残留消毒剤の最大値。消毒剤の使用は微生物の発生を抑制するために必要とされます。
- MRDLG:** 最大残留消毒剤濃度目標。水道水中の残留消毒剤による健康リスクがなくなるとされる目標値。但し、消毒効果を考慮した値ではありません。
- NA:** 該当なし。
- ND:** 不検出。
- ppm:** パーツ・パー・ミリオン。mg/L（ミリグラム・パー・リットル）と同等。
- ppb:** パーツ・パー・ビリオン。μg/L（マイクログラム・パー・リットル）と同等。
- TT:** トリートメントテクニック。水道水中の混入物質を低減させるために必要な処置のこと。
- 90パーセント値:** 採取された全ての水道サンプルのうち90%のサンプルが示す最大値。90パーセント値がAL値を超過した場合、適切な軽減措置をとることが定められています。

連絡先

質問などは基地環境課までお問い合わせください：

Yoshiaki Kanazawa (243-6460) Yoshiaki.Kanazawa.ja@fe.navy.mil

Loreal Spear (243-9520) Loreal.spear@fe.navy.mil